

団体名	NPO法人 子ども・人権ネット CAP・にいがた	活動タイトル	「いじめ防止CAP白書」作成事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）		■活動風景		
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	子どものいじめを予防するために、子どもの人権が尊重され、子どもが人権意識を持って、自分を守る力を高めるとともに、子どもを取り巻く大人たちが、子どもへの暴力防止をめざし、社会の根底にある子どもに対する差別的根底的解消を図る。	アンケートの分析 検証委員会 毎回活発な意見 交換がされました		
●団体の社会的役割(ミッション)	CAP（子どもへの暴力防止）プログラムの普及を通して、子どもの人権を基にした暴力防止教育の有効性を測定し、新潟市だけでなく県内さらには全国でのモデルグループとなる。			
●団体の活動基盤	新潟市以外の市町村からの委託が増える、CAPプログラムの実施するスペシャリストのメンバーが増えることで、財政の健全化とCAP・にいがたのメンバーの次世代の育成、グループ運営の健全化をめざす。			
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
●アンケートの分析・検証委員会の開催 新潟市18小学校30クラス758人、6中学校17クラス457人のアンケートをクロス集計し、分析、意見交換を行った	●アンケートの分析・検証委員会の開催 ①4回実施（当初計画3回を4回に変更） ②「いじめ防止CAP白書」を1,000部作成した	シンポジウムの様子 感染予防対策を徹底して開催		
●「いじめ防止CAP白書」の作成 CAP子どもワークショップの受講者、被害者、加害者、それぞれの意識が変化することが明らかになった	●「いじめ防止CAP白書」の作成 ①3市の議会でCAPプログラムについて議会質問にとりあげられCAPへの理解が進んだ（新潟市、新潟市（2人）、上越市） ②新潟市総合教育会議にて報告することが決まった（2020年11月24日）			
●「いじめ防止CAP白書」報告会といじめ防止のためのシンポジウムの開催 意見交換の場では子どもの人権やいじめについての質問が活発に議論され理解が深まった	●「いじめ防止CAP白書」報告会といじめ防止のためのシンポジウムの開催 ①2020年8月2日に開催（当初計画6月から8月に変更） ②参加者38人（市会議員10人、教育委員会1人、教育関係者4人、他）			
●グループ運営の健全化を図る メンバーのスキルアップに力をいれた	●グループ運営の健全化を図る ①グループ内研修を月1回（12回）行った ②グループ内研修の参加者が20パーセント程度増加 ③新メンバーがスキルアップのため自主グループを立ち上げ（メンバー6名、月1回練習） ④次年度の新しいU-CAPTAトレーニングリーダーが1人誕生した			
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題		■活動成果のアピールポイント（自由記入）
●アンケートの分析・検証委員会の開催 専門家（大学教授、医師、NPO協会職員）とアンケートの分析をすることで、CAPの有効性を多面的に評価することができた。	当団体の実現したいビジョンは「子どものいじめを予防するために、子どもの人権が尊重され、子どもの人権意識が尊重され、子どもが人権意識を持って、自分を守る力を高めるとともに、子どもを取り巻く大人たちが、子どもへの暴力防止をめざし、社会の根底にある子どもに対する差別的根底的解消を図る」ことをめざしている。「いじめ防止CAP白書」作成を通して、CAPのいじめ防止への有効性を明確にすることができたこと、広くシンポジウムへの参加を働きかけた結果、新潟市、新潟市、上越市での議会質問につながった。さらに新潟市では11月24日開催の「新潟市総合教育会議」で白書作成の報告をすることが決まった。まず大人が、いじめ問題や、子どもの人権について正しく理解することが重要である。今後の課題は、新潟市以外でもCAPプログラムが実施されることである。今後は、「いじめ防止CAP白書」の報告会を、新潟市各区、長岡市、上越市、燕市、阿賀野市等で実施する。	この1年間の活動を通じて	「いじめ防止CAP白書」作成	を達成しました。
●「いじめ防止CAP白書」の作成 「いじめ防止CAP白書」報告会といじめ防止のためのシンポジウムの開催した。 コロナ後に起けるシンポジウム開催のための感染防止対策についてのマニュアルを作成し、安全に実施した。また、ちらし作成時には、QRコードをのせ、ホームページへ導くことが効果的な広報につながった。		■受益者の具体的な変化（効果測定結果等）		
●グループ運営の健全化を図る CAPプログラム（就学前、小学生、中学生）実施における感染予防対策のマニュアルを作成し実施することで、保育園、学校からの信頼を得た。		●シンポジウムに参加された教職員の方から『当校でもぜひ取り入れたいと思いました』と感想をいただいた ●CAPプログラムの効果を再認識しワークショップに従事するメンバーが6人増 ●持続可能なグループ運営のために、CAPスペシャリスト養成講座を2021年3月に新潟市で開催することを決定し、さらに若いメンバーを育成することとした。		